

Into my Packet



後藤滋樹の

# 新・社会楽

後藤滋樹  
goto@goto.info.waseda.ac.jp  
早稲田大学 理工学部 情報学科

## 第61回「2:8の法則」

### 【2割の人が8割の仕事をする】

2:8の法則は、社会のあらゆる場面で観測することができる。会社では全社員が同じように働いているわけではない。約2割の従業員が全社の8割の仕事をこなしている。明らかに不平等だ。一方、小売業では、全体の2割の銘柄が売り上げの8割を占めている。どの商品も同じように売れるわけではない。売れ筋の商品と売れない商品とが明確に分かれる。

インターネットでも、同じような傾向が見られる。たとえば早稲田大学の通信相手のアドレスを分析すると、約2割の相手（宛て先）が全体の8割のトラフィック（流量）を占めている。ほかのネットワークでも似たような傾向にあるらしい。

社会では2割の働く人をエリートと呼ぶ。自らエリートと自称する人は、大衆がバカンスを楽しむ時期にも仕事をいとわない。

また、商品の中でよく売れる2割の製品はいくゆるブランド商品である。売れる商品は在庫が不足する騒ぎを招く。売れない商品はいくら値引きをしても売れない。パソコン売場でよく見かける風景である。



### 【2乗の法則「4%で常識になる」】

私は2:8の法則を進めて「2乗の法則」を唱えている。2割のさらに2割というのは全体の4%になる。この4%という数字が社会的な認知を得るために必要なのだ。ある宗教が、全人口の4%を信者として持てば、それは無視できない勢力となる。

インターネットの場合でも、利用者が4%を超えたところから一人前に扱われている。以前には新聞にインターネットの記事が掲載されるときには「インタネット」と書かれたこともある。このほうが本来の外来語の表記の原則に合致するらしい。4%を超えて用語が常識となり、インターネットという長音付きの表記が一人前に扱われるようになった。

私は政党の分析を行っていないし、恐らく政党の人数を数えれば政治の局面でも、似たようなことが言えるだろうと予想できる。

### 【エリートは交代する】

2割の働くエリート諸氏のお蔭で、なんとか社会は成り立っている。これには大いに感謝すべきである。ただし、エリートが社会のすべての局面で有効なわけではない。

まずエリートは交代する。会社では自他ともにエリートと認めるA氏が、テニスでは部下のB君に頭が上がらない。東京では売れ筋の商品Cが、なぜか関西ではDに負ける。このような場合にも2:8の法則が成り立つことが多い。ただし、ランキングの内

容を見ると全国一律ではない。

インターネットの通信の相手は、時間帯によって相当に変化する。ここでもランキングが変化する。それでも全体としては2:8の法則が成り立っている。

### 【4%を目標にして始めよう】

日本は一般的な国だと言われる。新しい試みを、全国的にいきなり展開するのは苦しい。もっと気楽に考えて、たとえば全国民を対象にしなくてもいい。4%で十分な影響力がある。そのような観点でインターネットの統計を見てみよう。Network Wizards社の統計（Jump）によると、1999年7月現在で日本（JP）でインターネットに接続されているコンピュータは2,072,529台であるという。この数字を10倍して利用者の数を推定するのが習わし

となっている。利用者（推測値）は2千万人である。これは日本の人口の中では2:8の法則に近い。2割に近い人が利用している。

一方、世界のインターネットに接続されているコンピュータは56,218,330台であるという。日本の割合は3.7%で、これは4%に近い。国別の統計では、日本が米国に次いで世界第二位のインターネット大国だが、数字のうえでの一位と二位の差は大きい。ただし日本が世界全体のインターネットの約4%を占めるという事実は大きい。つまり日本は無視できない存在なのである。

### 【残りの96%が心配】

全人口の2割を占めるエリートは、ほかの8割の面倒を見るからこそ、エリートとして尊敬される。同じように4%を占める先駆的な人々は、残りの96%を導く任務がある。このような観点から、日本におけるインターネットの利用者の役割が明確になる。

まず国内では、2割を占める中枢部として残りの8割の人々を導かなければならない。さらに重要なのは、世界における4%の存在として、国際的にインターネットを普及させる動きを支援する必要がある。

いきなり国際的な役割を言われても、当惑される諸兄が多いかもしれない。しかし上の分析から帰結されるように、日本のインターネットは世界的に見て一人前である。その背景があるからこそ、日本への期待も高い。いよいよ国際的な場面での活躍が求められている。世界におけるインターネットの利用者は、まだ5億6千万人と推定される。これは世界の総人口の4%よりも多いのだが、その後の普及は予断を許さない。

Jump www.nw.com



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)